

平成 24 年度「異文化理解」教育プログラム事業報告

(自平成 24 年 4 月 1 日～至平成 25 年 3 月 31 日)

1 平成 24 年度数値目標

1. 実施校数 年間 230 校(NE T数)
2. 講義時間数 年間 1,700 時間

年度別実績推移(資料①・②)

| | 20 年度 | 21 年度 | 22 年度 | 23 年度 | 24 年度 |
|-----------|--------|--------|--------|--------|--------|
| 実施校数(NET) | 206 | 206 | 199 | 226 | 245 |
| 出講講師数(人) | 989 | 967 | 971 | 1,032 | 1,107 |
| 講義時間数(時間) | 1,609 | 1,553 | 1,603 | 1,717 | 1,903 |
| 講師料(千円) | 16,423 | 16,003 | 16,089 | 17,106 | 18,705 |

活動の推移

実施校数(NET)及び講義時間数とも目標数値は、達成致しました。受付事務処理業務の改善や新規校への働きかけが、実績数字の増加の要因であるといえます。

年間を通じて、業務内容のデータ化を実行し、学校の要望に応えられる体制を築いた結果、事業開始以来最高の数値が達成できました。

○改良型講師データの活用

- 1 留学生講師全員約 100 名の個人データを毎月把握した。(資料③)
- 2 講師データを基に、学校からの申し込み・要望に対し、可能な限り対応した。

この改善した講師データベースで留学生の状況を把握することにより、学校と講義日の折衝、講師の決定に対応できる体制が整ったといえます。

資料①の 24 年度「申込学校数」(複数回申込校含む)では、9 月までに 263 校と年間実施校の 88%が申込み、事務局の繁忙期は、「受付対応業務の 4 月～9 月」と「派遣業務と確認作業の 10 月～3 月」の 2 期に分かれて業務が行われていることが分かります。

現状では、10 月以降、学校からの申込を受理することは困難な状況になってきました。

2 講師の充実と実施校の内訳

①学校の要望に応じた国・地域の留学生講師の確保

ヨーロッパ・アフリカ・アメリカの地域の留学生の応募が少なくなり、「英語活動」講師から兼任講師として面接し、以下の8か国の講師を新年度に登録し補いました。

オーストラリア・アメリカ・コンゴ・ベナン・モルドバ・アルジェリア
ニュージーランド・ブラジル

②小学校・高等学校の実施校が増加

昨年度より数字が伸びた原因の一つに、小学校・高校の実施校の増加があります。高校はクラス数が多い(1学年7~10クラス)ので講義数の増加にも繋がっています。

| | 平成 23 年度 | 平成 24 年度 |
|------|-------------|-------------|
| 小学校 | 46 校(20%) | 57 校(23%) |
| 中学校 | 132 校(59%) | 131 校(53%) |
| 高等学校 | 44 校(19%) | 51 校(21%) |
| その他 | 4 団体(2%) | 6 団体(2%) |
| 合計 | 226 校(100%) | 245 校(100%) |

3 留学生講師募集大学の増加

毎年留学生講師募集にご協力頂いている大学は18大学でしたが、震災の影響が続いているとみて、留学生数の減少を危惧し、新たに4校(明治大学・青山学院大学・東京医科歯科大学・埼玉大学)の大学に募集依頼をお願いし、22大学での募集をおこないました。結果、応募者は昨年度とほぼ同じ117名となりました。

4 学校からの講義の満足度評価

講義を実施した学校の先生からのアンケート方式で得た評価には大変高いものがあります。(資料④)

5 事務局の対応力の向上

①申込から講義依頼まで業務分担とチェック機能

学校の依頼書及び留学生講師の出講について、梅村・串間で、渉外と書類作成業務及び郵送書類のチェック機能を明確にし、申し込みに対しミスなく対応できる体制を目指しました。

②富山常務理事・堀内シニアアドバイザーの学校へのアプローチ効果

留学生講師の現場指導の他に、学校長や担当者へのプログラム導入の説明努力が実ってきて新規校の増加、継続校の次年度への継続実施に結び付いてきています。

③ホームページの全面デザイン改定

新規の申込校の為に「講義申込書」の発行をわかりやすく改善し、電話での問い合わせに対し、ホームページの利用を促進し、対応しました。

④留学生講師の管理

今年度も講師の管理事項の一つとして、講師の遅刻防止の為、以下の対策を継続しました。

- ① 学校の最寄駅に学校より出迎えを依頼した。
- ② 協会の職員が同行時は、駅改札口で待ち合せ、留学生の遅刻が予想される場合でも、早めの対応ができるようにした。
- ③ 出講の前日に電話で再確認を行った。

結果、今年度の遅刻事故は、一人は電車の乗り間違え、一人は集合時間の記憶違いで遅刻をした2件に留まりました。

以上